

選考委員賞

生き物の命

六本木中学校 富田 キアナ

夏が来るたび思い出すことがある。

以前、近所に住んでいた幼なじみの一家は、夏祭りが大好きだった。お祭りに行くとき必ず「金魚すくい」をしていしたが、何度も挑戦し数十匹もすくう姿は、「金魚すくい」をするために夏祭りへ行く」という感じがするほど。それでも帰りには家族全員が金魚の入った袋を手をぶら下げて歩いている、ほのぼのとした雰囲気は何ともうらやましくて仕方なかった。

しかし、私には一つの疑問があった。十匹以上の金魚をどのようにして飼うのだろうか？と。どうやら洗面器や果物の入っていたパックを利用していたようで、案の定、三つの容器の小さなものから順に三日後、四日後、五日後と毎日数匹ずつ金魚が死んでしまい、あつという間に全てがお墓行きとなったそうだ。

そのようなことが数回続いたのち、ある年の夏休みに遊びに行つた私の目に、立派な水槽が飛び込んできた。金魚たちはのびのびと暮らせるようになり、これで夏祭りの金魚すくいを安心して見守ることができるようになったと、私は安堵した。

しかし、今度は母が気になることを言った。

「毎年、お盆の時期に二週間ほど田舎に帰省してしまうのに、金魚のエサはどうするのかしら？」と。尋ねてみると、「二週間分のエサをまとめて水槽へ入れ外出する」とのこととで、これにはさすがに呆れてものが言えなかった。

数日後、いつものように金魚が全滅したことは言うまでもないが、きちんと飼えないのなら、金魚すくいで楽しんで後は持ち帰らなければいいと思う。たとえ小さな命でも、私たちの勝手な理由で殺してしまつては良いはずもない。

日本人は食べるために魚を捕っているが、必要以上に捕り過ぎないよう制限がある。もし、消費できない程の量の意味なく捕り続けたら、きつと生態系が崩れ、大変なことになるだろう。だから、命あるものを大切にしていきたい。

先日、新聞で「今年サンマの漁獲量が少ない」と知つた。原因は今年の猛暑のようだが、その元を探れば、近年言われている地球の温暖化ではないかと気付いた。森林伐採による砂漠化や酸性雨などで動植物を苦しめていることが、結果として環境の悪化につながっているように思う。

そう考えると、常に生き物は自然と関係し、その環境に良くも悪くも影響を及ぼしているのではないだろうか。生き物が食物連鎖して生きているように、自然が大自然を生み、大自然が海や山を輝かせ、そして地球を美しくするよいうな「自然の連鎖」は、人間が手伝って守らなければならぬ壮大なプロジェクトだ。

少しでも役に立てるよう、まずは身近にいる小さな命を粗末に扱わず、動物や植物などの生き物を大切にすることを心掛けたい。